

野蒜復興新聞

第5回復興部会 開催

10月8日に開催された26年度第5回復興部会において、前回までに議論されてきたJR仙石線の開通に伴う課題について、さらに洗い出しを行い、まとめたものを要望書とし

て10月17日に開催された野蒜まちづくり協議会役員会への提出を行った。また、前回までに議論ができなかった野蒜海岸に関する課題についての議論も併せて行った。



10月8日の平成26年第5回復興部会の様子

野蒜まちづくり協議会 要望書提出へ

10月8日に開催された平成26年第5回復興部会において、前回までに議論されてきたJR仙石線の開通に伴う課題を精査した上で、要望書を作成した。そして、10月17日に開催された第7回野蒜まちづくり協議会役員会の場で要望書として東松島市に提出することに、役員会の承認を正式に得た。今後、野蒜まちづくり協議会は、提出された要望書を基に、さらに要望内容を膨らませ、再度役員会を通じた上で東松島市に提出を行う予定である。現在の要望内容は次の通りである。

要望内容(案)

- ① 安全対策、防犯対策、新駅までの取り付け道路、インフラ整備等の工事ルートや工事期間の明確化
- ② 新東名駅にエスカレーター設置
- ③ 高台造成に伴う土壌流出等雨水対策の明確化

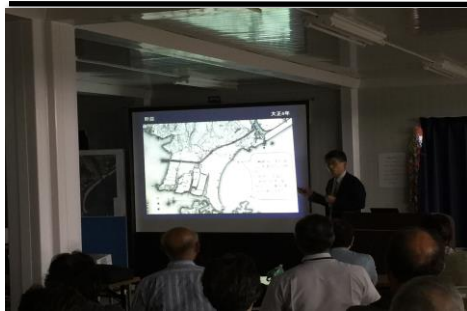
また、10月8日の復興部会内において、検討優先事項として挙げていた野蒜海岸の課題について、議論を行った。今回も部会で提示された課題は、①海岸への乗り入れ口について②緊急時避難場所について③野蒜海岸の新しい使用方法の可能性について。以上の3点である。野蒜海岸は野蒜地区にとって大切な観光資源である。現段階では海水浴場として開放できる日はまだ未定ではあるものの、いつでも観光地として再開させることができるような準備は必要である。本部会の最後に、復興部会は今後も野蒜海岸の課題を検討すると共に、地元住民はもちろん、他地域の住民にも親しみ、愛情を持ってもらえる「ふるさと」づくりをしていきたいと締め括った。

野蒜北部丘陵振興協議会 商業系特定街区を検討

9月28日に開催された平成26年第4回高台移転部会において、低層住宅地区のまちづくりルール(案)について基本的な考え方を示すと共に、今後の進め方の確認を行った。また、確定画地の変更に係る方針について議論を行った。主に議論された一つが、商業系特定街区のまちづくりルールについてである。商業系特定街区とは、作業場を併設する事業所や百坪を超える事業用地の希望者を集約した地区である。基本的に戸建住宅と同様のルールとする方針であるが、事業者が事業し易い形にしたいという意見も出ている。現在までに、生活サービスマーケット等、住民生活に根付いた店舗の誘致が期待される。



9月28日の平成26年第4回高台移転部会の様子



9月28日に「野蒜のまちづくり」をテーマとして、各界から有識者を招き、地域の将来を考えた。野蒜の歴史や観光資源、文化を地域活性化の観点から、まちづくりの方向性を話し合いました。本日は、野蒜の歴史や観光資源、文化を地域活性化の観点から、まちづくりの方向性を話し合いました。

野蒜の「だから」を活かしたまちづくり
パネルディスカッションの開催



野蒜ってこういう歴史があったんだね～。

野蒜まちづくり協議会
イメージキャラクター
マックん

し、有識者との意見交換も行われた。東北学院大学教授、松本秀明(まつもと ひであき)氏は、会の中で「高台へ移転しても、高台と元地を切り離してほしくない。」と語り、地域全体でこれから復興、そして発展につなげてほしいと締め括った。参加した住民は、初めて知ったこともあり、野蒜・宮戸地区の素晴らしさを改めて知った。その復興への想いを語った。

野蒜地域交流センター(N-まっぶ) 1階リニューアルのお知らせ



野蒜地域交流センター(N-まっぶ)の1階の展示スペースがリニューアルされた。東松島市と同市図書館の協力で、これまで展示していた震災当時の写真をリニューアルし、A1版のパネルが展示された。



また、同スペースにiPad(アイパッド)も二台設置され、展示されている以外の写真や、動画等も自由に閲覧できる。これまで通り誰でも自由に入場し、閲覧できる。当時の記録を後世に残すための施策、この機会にぜひ足を運んでみてほしい。

これまでの「第一号」二十四号野蒜復興新聞は野蒜まちづくり協議会ホームページでダウンロードできます。また、野蒜市民センターへも設置しておりますのでぜひご覧ください。

野蒜復興新聞

協議は毎週1回程度



高台移転部会 協議開始

『野蒜まちづくり協議会』で検索、ダウンロード可能